

国語 第6学年 話し言葉と書き言葉 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。話し言葉を劣った言葉として扱わない。単元の終わりに残すのは、口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)オ	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使うことができる。文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使っている。 （〔知識及び技能〕(1)イ）	①「書くこと」において、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全1時間（知・技①）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」 【めあて】話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。 〈予想される児童の反応〉 ・「ここ」だけでは場所が分からない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」 会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。 口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・「ここ」だけでは場所が分からない。 ・話す時は指で示せるが文では名前が必要。 ・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。	独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。 想定するつまずき：口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を

線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。
縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

つまづきとして、口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。この場合は、独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。おおむね満足できる状況は、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」130行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

